（第四十一号）

関東艮陵だより

東北大学関東艮陵同窓会

春季総会のご案内

薫風の候、会員各位には、益々ご清栄のことと大慶に存じ上げます。

さて、東北大学艮陵同窓会関東連合会春季総会を下記により開催したいと存じますので、なにとぞ万障お繰り合わせのうえ、ご出席を賜りたくご案内申し上げます。

今回の総会では、特別講演を飯野正光先生（昭和五十一年卒、前東京大学医学部教授、現日本大学特任教授　本会副会長）にお願い致しました。

テーマは基礎医学系大学院に占める医学部卒業生の割合の減少を憂い「絶滅危惧種を救う」（講演要旨後述）と題してご講演をして頂きます。

懇親会のアフターディナーコンサートは、仙台出身のバリトン歌手成田博之さんをお迎えして数々の名曲（曲目等後述）、をお楽しみいただく予定になっております。

新緑の季節にふさわしい充実した総会になるものと思いますので、奥様はじめご家族の皆様ともども、ご出席くださいますよう、皆々様のお越しを心からお待ち申し上げます。

東北大学艮陵同窓会
関東連合会　会長　　**押田茂實**

総会プログラム

一、期　日　平成二十八年六月四日（土）

二、場　所　市ヶ谷私学会館アルカディア
電話０３（３２６１・９９２１）
ＪＲ・地下鉄市ヶ谷駅から徒歩二分

三、受付開始　午後四時より

四、総　会　午後四時三〇分より開会
開会の辞
会長挨拶
経過報告
各役員報告・その他
閉会の辞

五、特別講演　「絶滅危惧種を救う」
飯野正光先生（五一卒）

六、懇親会　午後六時より開会
アフターディナーコンサート
成田博之さん　バリトン歌手

七、会　費　会員　一〇〇〇〇円
ご家族　五〇〇〇円（一人）

八、出席申込み　同封の振替用紙に会費と共にお申込み下さい。

（会費納入のお願い　本総会会費及び年会費のご納入を四ページ記載要領にてお願いします）

春期総会特別講演要旨

絶滅危惧種を救う

日本大学特任教授
飯野正光
（昭五一卒）

飯野正光先生・昭和５１年卒

医学部を卒業して、基礎医学に進む学生は、以前は結構いたと思う。ところが、国立大学医学部長会議の調査では、基礎医学系大学院に占める医学部卒業生の割合は年々減少していて、このまま行くと、「絶滅」するのでないかと危惧されている。

医学部卒業生が、基礎医学研究に全く参加しなくなるのは、医学全体として望ましいこととは言えない。あえて日米の比較をしてみる。米国の医学部には、ＭＤ・ＰｈＤコースという、医学部教育と大学院博士課程を並行して履修するシステムがある。通常四年で卒業できるところが、このコースでは、七～八年かかるという。驚くべきは、ＭＤ・ＰｈＤコースをとっている医学生が全米で五千名もいるというのである（Ａｓｓｏｃｉａｔｉｏｎ ｏｆ Ａｍｅｒｉｃａｎ Ｍｅｄｉｃａｌ Ｃｏｌｌｅｇｅ調べ）単純計算で、一学年当たりの学生数は、七〇〇名程度になる。対して、日本では、その百分の一にも満たないであろう。

これは、座視できないとして、東京大学では、「ＭＤ研究者育成プログラム」を立ち上げ、医学部のカリキュラムに加えて、基礎医学研究室に所属して研究する機会を学生に与えている。各学年の二〇から三〇名ほどがこのプログラムに参加しており、そのうち五～一〇名程度は、六年生の夏までに英文の立派な修了論文を提出している。また、卒業後直ちに基礎系の博士課程に進学する学生も出てきている。医学部の過密な講義、実習が終わった後、深夜まで実験に打ち込んでいる医学生達を見ていると、大いに勇気づけられる。研究を体験した学生達は、卒業後直ちに基礎医学に進まなかったとしても、近い将来基礎医学研究に戻ってきたり、あるいは臨床医学研究で活躍してくれるだろうと期待している。研究は様々な視点から、幅広く行うことが大事である。そのためには、多くの大学医学部から研究に熱意を燃やす学生が出て来ることが望ましい。医学部がそういう人材を送り出し続けるよう心から祈っている。（本会副会長）

略歴　飯野正光先生

昭５１・３　東北大学医学部卒
同５５・３　東北大学大学院
　　研究科修了（医学博士）
同５５・４　東北大医学部助手
同５５・８～５７・８まで　ロンドン
　　大学客員研究員
同５９・６　東京大学医学部
　　助手（転勤）
平３・９　東京大学医学部講師
同７・４～平２８・３
　　東京大学医学部教授
同１９・４～平２３・３
　　同副医学系研究科長・
　　副医学部長（併任）
同２３・４～平２７・３
　　同付属疾患生命工学
　　センター長（併任）
同２８・４　日本大学医学部
　　特任教授　現在に至る

主たる学会活動　第１８回国際薬理学・臨床薬理学会議事務総長

受賞　上原賞　日本薬学会江橋節郎賞

第一八回女医部会開催決定

首題の女医部会は、来る七月二十三日（土）午後五時より、次の要領で行われます。

場所　アークヒルズクラブ（アーク森ビル三十七階）交通　地下鉄南北線六本木一丁目下車三番出口徒歩二分、銀座線溜池山王下車一三番出口徒歩五分。インターコンチネンタルホテル（旧全日空）とサントリーホールの右隣りのビル。中に入り右側に受付カウンターあり、そこの女性が三七階までの案内をしてくれます。

講演：早川東作先生（昭和五十八年卒）

テーマ「メンタルヘルス」等

若手会開催される

平成二十八年三月十二日（土）飯田橋駅近くの「北海道」で関東連合若手会が行われた。若い関東在住の艮陵会員が集まる機会を作り、研修や研究の相談に乗り、将来展望を援助したいと思い、開催して数年になる。

今年も、平成卒を中心に、女医会の方々にも声をかけ、更に私の息子が平成二十七年卒であることから、同級生にも声をかけてもらい、当日に備えた。

当日は二十八人程の会員が集まり、とりわけ本当の若手会平成二十七年卒の研修医が六人も参加した。（岩瀬遼、石田啓之、中川諒、新木杏子、林高大、桜井健一）。各自自己紹介をしながら、特に新人は、将来の研修や研究へのアドヴァイスをもらい、有益な会となった。毎年一回開くことを約し、二次会も行い散会した。（文責　昭和五十九年卒　岩瀬光）

笑顔で集う、若手会の先生方

アフターディナー・コンサート♪

仙台出身のオペラ歌手、バリトンの成田博之さんをお迎えして、皆様に馴染みの深い、イタリア・ナポリ民謡や、日本歌曲並びに歌劇「カルメン」から「闘牛士のうた」などを魅力溢れる美声のバリトンを皆様にご披露いたします。

主な演奏曲目

＊日本歌曲　荒城の月　初恋

＊イタリア・ナポリ民謡　オーソレミヨ　忘れな草　帰れソレントへ

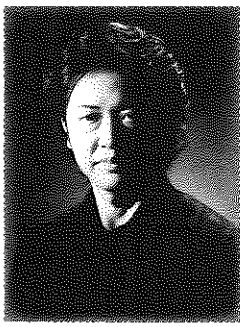
＊シューベルト　菩提樹「冬の旅より」

＊ビゼー　歌劇カルメンより「闘牛士のうた」

プロフィール・成田博之さん

古川西中学、古川高校卒業、国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。文化庁オペラ研修所修了。第八回日本声楽コンクール一位。第六十九回日本音楽コンクール三位。第五回藤沢オペラコンクール二位。〇三年ミトロプーロス国際声楽コンクール（アテネ）最高位。文化庁芸術家在外派遣研修にて渡伊。これまでに、東京二期会「ラ・ボエーム」マルチェッロ「カプリッチェ」伯爵、佐渡裕プロデュース・オペラ「カルメン」エスカミリオ「アンドレア・シェニエ」ルシェー等、出演多数の実績がある。

直近でも、十四年東京二期会「ドン・カルロ」ロドリーゴ、新国立劇場「カヴァレリア・ルスティカーナ」アルフィオ、同鑑賞教室「蝶々夫人」シャープレス、十五年東京二期会「リゴレット」タイトルロールはじめその他、数多くの公演を成功に導いてきた。



写真上は成田博之さん　バリトン歌手

特別寄稿
「ちょっと今から医局やめてくる！」

金谷幸一
平成五年卒・本会幹事・
舟橋総合病院副院長

「今回の関東艮陵同窓会の『だより』に何か書いてね」と幹事会の席でご指名を受け、この様な機会を与えていただきました。

最初に自己紹介をいたします。学生時代は昭和舎に生息し、授業にはろくすっぽ出ずに野球の練習に明け暮れておりました。野球部責任学年の年には、創部依頼初となる東医体優勝を成し遂げ、幸運にも授業に出なかった言い訳ができました。東北大学卒業後、すぐに東京女子医科大学　整形外科学教室に入局しました。現在は船橋総合病院で勤務しております。

私が卒業した当時は、初期研修制度のある今では考えられませんが、三者協定という制度のもと東北大学の医局の関連病院で研修する卒業生がほとんどでした。私が東北大学を出ようと考えた理由は、東北大学の「研究第一主義」という理念に自分が合わないと考えたからです。東京で臨床中心に勉強できるところを探そうと決めて頼りにしたのが、野球部先輩の野田哲生先生（がん研究所所長）でした。野田先生とは、野球部が優勝した年にお会いしました。主務をしていた私は、寄付のお願いを郵送したこともあり、お名前だけは存じ上げていました。

先生は、その年すべての試合に球場まで足を運んでくださり、「一つ勝てば一万円寄付してやる。がんばれ」と言ってくださいました。結局、五回勝って優勝し、かなりの出費をさせてしまいましたが、「この瞬間に立ち会えて、俺も未練がなくなった」と言って下さったのを聞き、嬉しかったことを今でも鮮明に覚えています。その時の縁を頼りに事情を説明したところ、東京に出てきて整形外科を専門にしている艮陵出身の先生方とお話する機会を作って下さいました。一週間お付き合いくださったのですが、最後に野田先生は「東京女子医大は何を研究しているのか分からないし、どのように人物評価をしているのか分からないけど、学閥云々はなさそうだからやれるだけやってみたらどうか」といわれました。そのことがきっかけで東京女子医大に入局することになりました。

東京女子医大に入局してからの十五年はあっという間の出来事でした。基礎研究をやらないと考えていた私が留学の機会を得られたこと、脊椎外科を伊藤達雄教授（脊椎外科では有名な片開き式椎弓形成術を考案した先生）に師事できたことなどいろいろな面で恵まれたと思います。そんな中、教室が教授選の混乱の時に医局長となりました。その時に出会ったのが、新田澄郎先生（元東京女子医科大学呼吸器外科主任教授）でした。

先生は、大月市立病院院長でいらして、医局から大月市立病院へ医師を派遣していた関係でお会いする機会があり、それをきっかけに関東艮陵同窓会の幹事に推薦いただきました。教授が変わって、教室内が次の体制作りのためにごたごたした状況（『白っぽい巨塔』とでもいいましょうか）になり、私自身かなり追い込まれたとき、新田先生はいろいろと相談にのって下さり大学を一度離れた私に「どんな状況であれ大学に残っていることが必要で、出ようと思えばいつでも出られる。潮時を見極めろ」と言われました。

私も自分がやりたいことは何だろうかと考え、教授にもう一度大学に戻れないかと伺いましたが、結局ＯＫの言葉は頂けませんでした。現在は、先輩から患者様のご紹介を頂いたり艮陵の先生やご家族の手術を任されたりする機会があり、艮陵の先生方の信頼をお受けして誇りに思っています。今年教室では、教授選がありましたが、決まった教授を理事会が承認せず四月になり選挙やり直しとなり混乱しています。そうした事情で、私が鬱々としている時に、私が大学入学の頃からお世話になっている野球部先輩の前田慎吾先生とお話をする機会がありました。前田先生は「お前が今やるべきことは、医局を離れるかどうか、そして、これから先、何をやりたいかを決めること」と言われました。まず、今までやってきたことと少し距離を置き、ピアノやボクシングを始め少しづつ自分の時間を作るようにしました。最初は、喪失感が大きく戸惑いましたが、少しずつ冷静に考えられるようになりました。私が出した結論は

「今からちょっと医局やめてくる」

関東艮陵同窓会に出ておりますと、ご自分のやりたいことを探して元気にやっておられる先生が多いことに驚かされます。「自分なんか、まだ、その半分も医者やってないな」と考えてしまいます。「関東艮陵同窓会は、私もそうであったように、先生一人ひとりの立ち位置や、考え方で意味合いが変わって来る会だと思います。先生方がやりたいと思っていることがあれば、その背中を押してくれる人たちが集まっているところです」と、最年少幹事という立場から後輩の先生方に申し上げたいと思います。是非、同窓会に顔をだしてみてください。

＊本年度（平成二十八年）年会費三千円・総会会費ご本人一万円
ご家族一人五千円を同封の振込み用紙により、ご納入をお願い致します。

東北大学艮陵同窓会
関東連合会　東京支部
〒247-0072
鎌倉市岡本二―二―一―七〇四
TEL　&　FAX
〇四六七（四五）〇二八七
平成二八年五月発行　第四一号